

練馬

インボイスでシンポ開催

世論に訴え導入中止

6月28日、ココネリホールにおいて練馬支部も加わる3・13重税反対ねりま実行委員会の呼びかけで「インボイス

制度反対!6・28ねりまシンポ」が1200人の参加で開催されました。岡澤利昭税理士が「インボ



参加者全員で反対を意思表示

イス制度は止められる!というタイトルで講演。岡澤さんは、この制度が民間同士をせめぎ合わせ免税業者を淘汰するもの。親会社、下請のいずれにも困難をもたらすもので、両者が反対で一致できる。日商等の業界団体の「凍結」という意見や日本税理士連合会の経過措置延長等の「妥協案」などの動きを見ると、運動を強めればインボイス制度の中止は可能である、などと話しました。

その後、岡澤さんをコーディネーターにパネルディスカッション。インボイスに直面する個人同業業、劇団、漫画家、個人タクシー、建設業者などの7人が発言し、さまざまに職種で深刻な問題が起きていることがあぶりだされました。「声を政府に届けよう(総理宛のハガキ)」「声を区民

品川 1.6万円以下過半数 公共現場でアンケート



区立児童相談所現場での行動

【品川・ビルメン・松井広仲記】7月7日、地元建設4組合(東京建設、南部建設、ユニオン、東京土建)共闘で夏の賃金行動・賃金調査「ズバツアンケート」に取り組みました。7月に実施される「区議会各会派とのヒアリング」の資料としても活用され、公契約条例制定に向けた話し合いの材料となっています。当日は、2班に分かれて、区内公共工事現場(「第四日野小学校舎改築工事(落札88億円)」「区立児童相談所新築

に届けよう(駅頭宣伝への参加)「練馬区を動かそう(陳情署名)」「一票で政治を動かそう(参院選での投票)」の行動提起を参加者で確認し、最後に「インボイス制度セツタイ反対」のボードを掲げて意志を示しました。

企業に解決求める 東京3陣9期日で行動

アスベスト

7月6日、東京地裁103号法廷で建設アスベスト訴訟東京3陣第9期日が行なわれました。裁判官の1人が交代したこともあり、法廷では、弁護団が第一義的に責任を負うべきなのは製造メーカーであること、また遺族原告の平本由加里さん(町田)が亡くなった定夫さんの被害の実態、この2つの意見陳述が行なわれました。

工事(落札19億円)での賃金アンケート調査を実施しました。合わせて29件のアンケートを回収することができました。アンケートでは、「30年賃金が上がっていない」と嘆く50代の土工の方もおりました。全体でも、1万円〜1万6000円の回答が15件と半数以上となり、公共工事現場での低賃金が浮き彫りになりました。また、建退共の手帳保持者は14人(48%)、CCUSカード保有者は13人(45%)と



FFFのメンバーによる気候危機について候補者に聞くという寸劇

7月3日、新宿駅南口で高校生、大学生を中心に活動するライイデー・フォー・フューチャー(以下、FFF)のメンバーは、7月10日の参議院選挙に向け、気候変動をより選挙の争点にするように街頭宣伝をして訴えました。(FFFについては2



東京地裁前での集会

あり咳込みながら「原告の高齢化は進んでいる。メーカーも加わった補償基金制度の早期の創設を求めている。」

最賃1500円に

東京の審議会に向け宣伝

7月5日、東京労働局で求めた東京の最低賃金を審議する東京地方最低賃金審議会が開かれ、東京地評と東京春闘共闘会議は労働局前で最賃1500円への引き上げを求

交流ツイッター情報を受け

麻布台で緊急宣伝

7月6日、全建連連関東地区協会は虎ノ門・麻布台プロジェクトA街区(元請、清水建設)で緊急の現場宣伝を行ない、4県連組合22人(東京土建は8人)が参加しました。この現場に関して、東京土

建で開設している現場の情報交流ツイッターに従事者の声が寄せられていました。4時から約1時間の行動で、ツイッターや小ぶりの団扇などを渡しながら、「現場で困ったことはありませんか」「バ



東京労働局前での宣伝行動

「建設労働者は資材の高騰や不足から就労日数が減り、収入が大きく減っている。最賃1500円への引き上げの重要性を痛感している」などと話しました。審議会初傍聴の御崎誠人東京土建専従常任中執は「審議会は日程の確認等ははかり、議論は専門部会でということだった。議論は公開すべきだ」と憤っていました。

022年「けんせつ」新年号で掲載) 猛暑のうえに、時々雨もぱらついていたが、若者たちは、気候危機はタイムリミットが迫っているにもかかわらず参院選の争点になっていないと、危機感をもってスピーチしました。高校生のメンバーは「昨年のCOP(気候変動枠組条約締結国会議、

気候危機を争点に

高校生、大学生が街頭宣伝

英・グラスゴー)に参加した。気候変動対策は今すぐの必要がある。私はまだ投票できないが、今度の参院選も対策をかけた候補者が記者の気候変動に関する質問に答えるというもの。宣伝行動の最後に、「気候正義」などのフレーズを英語で響かせました。

ない。気候変動を止めるのは未来でなく、今決まる」とと切実に訴えました。スピーチの合間に、寸劇も行ないました。「FFF気候キキ」 「Blah Blah h党・無策ムサク」と書かれたタスキをかけた候補者が記者の気候変動に関する質問に答えるというもの。宣伝行動の最後に、「気候正義」などのフレーズを英語で響かせました。